科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 26 年 6月19日現在

機関番号: 14701 研究種目: 若手研究(B) 研究期間: 2011~2013 課題番号: 23730751

研究課題名(和文)生活基盤型保育における知的教育の研究 造形の遊びから学力を可視化する

研究課題名(英文) Research of the Intellectual Education in Life Based Early Childhood Education Art

研究代表者

丁子 かおる (CHOJI, Kaoru)

和歌山大学・教育学部・准教授

研究者番号:80369694

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,700,000円、(間接経費) 510,000円

研究成果の概要(和文):保幼小の造形活動における材料用具のカリキュラム、指導(使用)開始時期、保育者の保幼小連携への意識調査を大阪市内と北九州市内の全保育施設を対象に行った。幼小の校種間で意識の差があること、保育現場でも急ぎすぎた指導の可能性があることなどが明確になった。また、小学校教育における国語や算数といった教科と幼児教育における造形活動との関連を示すために、造形の遊び場面が教科学習に繋がっていると思われる場面などを調査し、学習指導要領から各教科の学習単元のもとになる活動、重なる活動の割合をグラフに数値化した。幼児の造形活動が知的教科の初期の概念をつくる活動となっていることが証明できた。

研究成果の概要(英文): I researched opinion poll and curriculums of the instruction material and tools in preschools(kindergaerten)in Osaka and Kitakyushu, that child Art activities to connect education from pre school to elementary school .It became clear that there is a difference of consciousness between preschool teachers and elementary school teachers, and there is possibility of instruction hurried too much at pres chools.I reserched the scene where it seemed that the art activities of young children related with subjects and early childhood education in elementary education.

It make clear the rate of the activity which becomes a basis of the study unit of each subject from the go vernment guidelines for teaching and which works and overlaps was evaluated in the graph. It has proved that the art activities of young childrens are builds the concept in early stages of an intellectual subjects

研究分野: 社会科学

科研費の分科・細目: 教育学・教育学

キーワード: 幼小接続 造形 知的共育 幼児教育 小学校 保育 カリキュラム 経験

1.研究開始当初の背景

近年、低年齢児から英語や体操といった 教室に熱心に通わせる親、保育施設でも、 文字や英語の指導、保育における科学的思 考をキーワードにした本が米国より紹介的 れるなど、日本の幼児教育において知的教 育に関心が高まっている。しかしながら、 日本における幼児教育は総合的に行われる 生活基盤型の保育であり、幼児期の発達に 適した教育・保育課程において学びを培う ものであるため、幼児の知的な学びは一般 的には理解されづらく、小学校での教科指 導と同じ内容を幼児に楽しく指導するなど、 誤ってとらえらることがある。

また、多様な保育が展開される日本では、 知的教育へのニーズはあるものの生活基盤 型の保育で総合的に人格形成を進めている ので、知的教育に焦点を絞りにくい。その ため、保幼小連携が推進されている現状に おいて研究は始まったばかりで少ないか、 または、成果はどちらかの視点に偏りすぎ てしまうことがある。それには、保幼小連 携を進める上でも、両輪として進められる べき学びと発達という観点が十分に理解さ れず、例えば、学びをつなげたい小学校の 教員と、子どもの発達をつなげたい幼児教 育の保育者間で、話し合いは、まとまりに くい現状がある。未だ、国内では子ども主 体の遊びから知的教育に焦点を当てた研究 の事例は未だ少ないといえよう。

2.研究の目的

以上のような経緯から、文字の読み書き に代表される小学校の教科学習をそのまま 幼児に提供するのではなく、幼児教育の学 びに焦点を当て、現行の幼児教育の学びが 小学校の教科学習の土台を育む経験にもな っていることを示すことで、保幼小接続の ための理解を促進する。研究の範囲として、 ここでは幼児教育における造形活動に関わ る活動の内容や過程、教育課程に限定する。 造形の活動は、領域「表現」において特記 されることが多いが、実際には、グループ で活動をして「人間関係」の育ちをねらい にしたり、砂や水などを扱って領域「環境」 とも密接であったりと、総合的に行われて いる。本課題では、造形活動を見直し、改 めて着目することによって、低年齢児にお ける新たな知的教育の視点を提案する。

3.研究の方法

本研究では、1)造形活動に関わる材料 用具を扱い始める平均的年齢と、保育者の 幼小連携への意識について状況について保 育現場を中心に調査し、現状理解を行う。 2) 造形活動の過程の中で絵やつくったも のを互いにみあって思考する鑑賞活動につ いて調査を行う。幼児の鑑賞では、日常で お互いに絵をみたり一緒に制作したりする 場面はよくみられるが、みんなの前で話す ことにのみ主眼が置かれがちである。そこ で、より効果的な幼児の鑑賞の方法を模索 するために実践的な調査を行う。3)知的 教育について小学校における国語、算数、 生活、理科、社会の5教科と、幼児の造形 活動の学びや活動の関連について、学習指 導要領の各単元をもとに調査をする。
調査 結果はグラフ化し、また、教科ごとに関わ りの強い遊びを抽出し、教科ごとの関連に ついて特徴をまとめる。

本研究では、子どもの造形活動において、子どもたちが単に制作するのみではなく、様々な学びの過程をもっていることに注目する。例えば、導入時には、子どもたちは、保育者の話を主体的に聞いたり、グループで話し合って意見を出しあってイメージを広げたり、材料用具の扱い方を知って試すなどを行う。また、活動によっては、図鑑を調べたり、協働で問題を解決したり、材料を準備したり片づけたりするなど、制作や話し合いといった様々な場面がある。

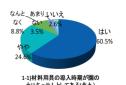
幼児・児童の思考は具体的な事物を用いて思考を深め、その後、抽象概念を扱えるようになるという発達的特徴があるため、 日常的に物と関わる造形は、子どもの思考に大きな影響を与えると考え、対象とする。

4.研究成果 (1)材料用具のカ リキュラム調査

幼児教育現場の 材料用具の使用状 況について現状を 理解するため調査 を行った。北九州 市及び大阪市内の 幼稚園・保育所を 対象に材料と用具



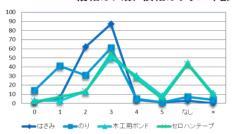
1-1)材料用具の導入時期が園の



に関するアンケート調査を行った。大阪市内幼稚園及び保育所から 165 園の回答(回収率 21.9%)と,北九州市内幼稚園及び保育所から 108 園の回答(回収率 43.0%)があった。

「問.材料用具の導入時期がカリキュラムにあるか」では、幼児教育において,どのような遊びをいつごろ行うのかは,子どもの様子を見ながら,随時変更し適応させていくが,8割以上の園で教育課程,保育課程としても大まかに材料用具についてのカリキュラムがあることが分かった。

* 縦軸は人数・横軸はクラス年齢



平均年齢(0歳クラス平均を0.5歳と計算)また、各材料用具の使用について使用し始める時期について表にした。例えば、材料用具を使い始める時期についても、上図のような平均的なデータを得た。子どもにとってはじめて「つくる」ための用具としてはさみ,のり木工用ボンドとセロハンテープの使用については,大阪も北九州も3歳クラスをピークにして教えて始めていることが分かる。これをみれば分かるように、かなり低年齢から実際には使用をしている。

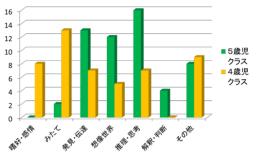
ただし、参考までに佐賀市K小学校小学 校教員でアンケートをとった結果と、先の データを比較してみた。ここで挙げられた 項目については、4か月~1歳程度遅く、

材料または 用具	大阪市内 平均年齢(歳)	北九州市内 平均年齢(歳)	材料または 用具	大 阪 市 内 平均年齢(歳)	北 九 州 市 内 平均年齢(歳)
はさみ	3.1	2.8	折り紙	2.8	2.8
თ り	2.5	2.9	和紙(障子紙・版画	3.6	3.6
木工用ボンド	3.7	4.0	用和紙 等)		
	2.5	2.6	新聞紙	2.1	2.4
セロハンテープ	3.5	3.6	ビニール	2.8	2.8
指絵の具	2.3	2.6	空き箱	2.8	2.9
溶き絵の具*	2.7	2.9	ダンボール	2.8	3.0
	4.3	4.5	of the street	2.6	2.0
筆	3.3	3.4	自然素材	2.6	2.8
	2.5	2.6	小麦粉粘土	1.8	2.0
クレヨン	2.6	2.3	油粘土	2.9	3.0
鉛筆	4.2	4.2	紙粘土	3.2	3.5
水性ペン	2.9	3.3			

1.材料用具	2.就学前に使用 していると想定	3.小学校調査で の教員の想定	4.幼保調査 との差	5.使用年齢は 分からない
はさみ	87.0%	3.8歳	+1.0歳	34.8%
のり	100.0%	3.3歳	+0.8歳	39.1%
パス	91.3%	2.9歳	+0.4歳	43.5%
空き箱	87.0%	3.5歳	+0.7歳	34.8%
油粘土	78.3%	3.5歳	+0.6歳	39.1%

小学校教員は低年齢児が使用を開始していると想定していた。加えて、約3割が想定すらできないず、分からないと答えていることも注目したい。つまり、幼小接続といった場合に、学校や園全体で子どもを育むと考えれば、保育者の意識は高く、小学校教員は、幼小間で接続への意識は個人差が大きい。しかしながら、どちらも研修などで理解したいという意見も多数あった。

(2)幼児の鑑賞による発話の分析調査



4歳と5歳クラスによる発話ポイントの 内容分類と比較を行った。子どもの発話を 1 文ずつに分け、内容ごとに文の数で分類 し、数値化したところ、5歳は、絵をみて 子どもの言葉を聞いて伝え、創造し、その 関連から推測を深める発話が4歳よりも多 くみられた。4歳は のようだ!と自分 なりに考えて伝えて喜ぶ姿が5歳児よりも 多かった。年齢に応じた鑑賞は、幼児の発 話を促し、思考を促す機会となる。また、 幼児は主観的であるため、友達の話を聞か ないといわれるが、この活動の場面では、 友達の意見を聞いて推理したり反論したり 同意したりなど関連して話をする姿が多く 見られた。図で示したように全発話数のう ち、4歳は37.5%で、5歳は45.1%で関連し て発想をしたり意見を言ったりしていた。 作品をみんなでみる鑑賞は幼児なりに友達 の話に耳を傾けて自分の想像を広げられる 楽しい学びの手法となる。このように造形

に関わって友達や保育 者と対話したり、それ を元に思考したりする ことは、未分化な幼児 にとって総合的な活動 となるので分かりやす い。



(3) 幼児の造形の遊びと教科の関連調査

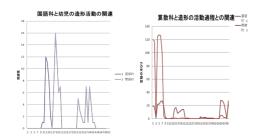
日常の造形活動の場面では、どんぐりゴマをつくるのに中心に軸をささいとコマがうまく回らない「重心の理解」、水を入れたバケツは量が多くなると重くなる「数と重の理解」お店屋さんごっこでお金やチムとを渡して商品を買う「社会の仕組たっなどの例にみられるように、子どもは生活の中で様々な発見や体験を感じたちは生活動の中で行っている。これまで設定して注目されず、幼児教育におけるでいないと考えられる。

そこで、こうした幼児が広い意味での造 形活動の過程で経験する直感的な学びを培 っていくことができる遊びと、小学校学習 指導要領における各学年の教科単元の関連 を調査した。幼児期の造形の直感的な遊び が単元の基礎的な理解となって理解される と考えられる、幼児期の経験から児童期の 学びにつなぐ 直接的な重なりと、 的な経験について、小学校1年生から6年 生までの教育課程を範囲とし、主に学習指 導要領から調べた。

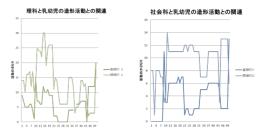
造形活動については、 活動の過程を大まかに分類し、導入時には 話し合いがされたり、用具の扱いの説明が ったりというように、幼児の活動内容につ いても細分類を行い、 直接的 間接的に 単元と関連すると思われるものについてポ イントを加算し、その結果を以下のグラフ に示している。

国語科では、1・2年生で、A話すこと・聞くことが導入と工大事なことを落とさず興味を持って聞く、オ互いの話を集中して聞き、話題にそって話し合う事など、人間関係での関わりが直接的に多く、B書くこととでも関連があった。造形活動の過程では、協働制作や、鑑賞、ごっこ遊び、劇遊び、絵本づくり、発表、話し合い場面が考えらえる。

算数科では、素材とであう造形の場面は、 全学年で算数の学習全体を通して、間接的



に基礎を培う経験になっている。数や量、

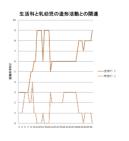


長さの感覚的イメージを培っている。領域では、2~6年生にあるC図形は、直接的に常に重なりがある。また、1~3年生のA数と計算、B量と測定、D数量関係は、であいの造形場面と直接、間接的に関わりが強い。遊びは、積み木、砂場、空き箱で造形遊び、お店屋さんごっこ、色水、制作、構成遊び、準備片づけが共通する。

理科では、3年生では、A物質・エネルギー(物と重さ、風やゴムの働き、光の性質、磁石の性質、電気の通り道)、B生命・地球(身近な自然の観察。太陽と地面の様子)すべてに関連が直接的、間接的に多見られる。かつ、Aでは3種類以上のものづくりを行うこととある。遊びでは、砂切りを行うこととある。遊びでは、砂切りを行うこととある。遊びでは、砂切りを行うこととある。遊びでは、砂切りを行うこととある。遊びでは、砂切りを行うこととある。というでは、風車制作、船の制作、色水づくり、風船遊び、カラーセロファン、魚釣り、観察画、ペットボモルロケット、雪でかき氷、ピタゴラス装置などは共通である。

社会では、「2 内容」のうち、3・4年生では(1)自分たちの住んでいる身近な地域や市(区,町,村)についての観察,調査は、共通し、(2)地域の生産や販売、仕事、(4)地域の安全を守る人や機関(5)地域の人々の生活や先人、(6)県の様子や特色は間接的に関わることが多い。遊びでは、個々から共同に展開する、お店屋さんごっこや、砂場や積

み木といったものを 見立てて町のイメージに展開する造形遊びは、共通である。 イメージを育む点で 間接的基礎を培うと いえる。



	1						1	表す							広げる										IV								V					71		VII									
段階	であう																									ひびきあう							まとめる					僬		7		その他の幼 児教育							
	A B						С				D							E											F					н					Т	J			K						
活動 過程 の区 分	対し活動・窓触遊び		材料 性遊び 月 異選択				保育者には る導入		å	個々の造形・表 現						į	共同・協働の造形										話し合い活 動						ふりかえり					準備		片づ け									
活動内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	1 2	1 3	14	1 5	1 6	17	18		0		2 2							3 :	1 3	3 3		3 5	3 6		3	3 9	4 0	4		4	4 4	4 5	4 6	4 7	4 8	4 9		5
の細 分類													Ī	Ī		Ī	Ī	Ī	Ī	T	Ī	Τ	Γ		П		Ī	T	T	Ī	Γ				T	Ī	Ī	Ī	Ī	Ī	1	٦	Ī	Ī	Ī	T	Ī		
直接 的 1	3	3	3	3	3	3	3	4	5	5	6	6	9	9	9	9	6	9	9	9 9	9 !	5 6	6	6	6	6	6	6	6	5 (5 6	6	6	6	6	6	6	7	8	8	8	7	8	8	8	8	8		
間接的 2	1	3	1	2	3	3	3	2	2	4	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0 0	0 :	3 2	2	2	2	2	2	2	2	3	3 3	3	3	3	3	3	3	2	1	1	1	0	1	1	1	1	1		

生活科は、9項目中すべてで直接、間接的に関わりがとても多い。幼小をつなぐ教科であることが改めて分かる。遊びでは、お散歩、探検、遠足から造形、園の行事での祭りや、お店屋さん準備、飼育栽培の造形、伝承遊び、生活経験とつながる造形遊び、片づけなどが共通する。

以上、小学校単元との関連を調べ、教科によっては間接的には6年生までの系統的 学習の基礎を培う遊び、直接的経験とつが る単元を見いだせた。

小学校児童の学びが自らの経験とつながり、「分かる!」「おもしろい!」と実感できる学びにするためには、幼児期の身体感覚経験や、語り合い確かめる時間が必要である。校種を超えて互いの理解を促すことでのみ、理解は深まる。幼児の経験理解が小学校での学習が幼児期の経験的学び、小学校での学習が幼児期の経験的学びから発展していくことが可視化され、ひいては児童が「分かる」ことの実感を深めることにつながると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

- 1. 論文発表 丁子 かおる「幼稚園における幼児が絵や彫刻を楽しむ鑑賞教育の実践的研究 幼児の言葉と表現を育む環境として
- 」『大学教員と幼稚園教諭との連携による 保育の創造 言葉で人とつながり合う幼児 を育てる』査読無,福岡教育大学幼児教育研 究部報告書.2013.3,pp.15-22.
- 2.論文発表 <u>丁子 かおる</u>, フロントライン 教育研究 「造形活動における幼小接続へ向 けての現状調査: 材料用具の経験カリキュ ラムについて」『初等教育資料 - (887)』査読無 pp. 112-115, 2012
- 3. 論文発表 <u>丁子 かおる</u>,「保育現場における材料用具の経験についての調査研究 美術教育の幼小接続へ向けてー」 『美術教育学 33』査読有,pp.287-300,2012

〔学会発表〕(計7件)

1. 口頭発表 山田 伸之, <u>丁子 かおる</u>, 日本保育学会 大阪総合保育大学「地震防災保育実践からみえてきた園とともにつくる視点 2014.5.18

- 2. 口頭発表 <u>丁子 かおる</u>,美術科教育学会 奈良大会 奈良教育大学「乳幼児造形から小 学校教育への接続と展開 生活と学びの土 台をつくる造形の遊び 」2014.3.29
- 3. 口頭発表 <u>丁子 かおる</u>,美術科教育学会 島根大会 島根大学「幼稚園の年中児と年長 児における言葉の比較と援助 幼児が絵画 をみて楽しむ鑑賞教育の実践事例を通して ー」2013.3.29
- 4.ポスター発表 <u>丁子 かおる</u>大学美術教育学会 大分大学「幼稚園における鑑賞教育の実践的研究 幼児の言葉と表現を育む環境としての絵画鑑賞 」2012.10.21
- 5. 口頭発表 山田 伸之, <u>丁子 かおる</u>, 日本保育学会 玉川学園大学「乳幼児からの体験型地震防災保育プログラムの開発」 2012.5.5
- 6. 口頭発表 <u>丁子 かおる</u>,美術科教育学会 新潟大会 新潟大学「保育現場における材料 用具の経験についての調査研究 美術教育 の幼小接続へ向けてー」2012.3.28
- 7. <u>Kaoru CHOJI</u>" Studyon human environment through Playful Art in Japan -Analysis of six-year-old from 0 practices-"Pacific Early Childhood Education Research Association 12th Annual Conference,神戸国際会議場, 2011.8.1

[図書](計2件)

- 1. 磯部 錦司編著,<u>丁子 かおる</u>他 10 名.建 帛社,『造形表現・図画工作』2014.4.15 pp.5-7,pp.76-77,p.108,pp.144-145, p.117,p.152,p.154,p.166,p.168,pp.172-17
- 2. 丁子 かおる, 4章 1担当「その他の保育システムにおける保育内容 1.幼保一体化の流れ」中西 利恵、三宅 茂夫編著他6名,あいり出版,『保育内容総論 保育所・幼稚園の保育内容の総合的理解と実践の探究』2013.pp.61-67.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

様 式 C-19、F-19、Z-19、CK-19(共通)

取得状況(計0件)

6.研究組織

(1)研究代表者

丁子 かおる (CHOJI, Kaoru) 和歌山大学 教育学部 准教授 研究者番号 80369694